一般財団法人新潟県建設技術センター
令和４年度研究助成事業（活動部門）実績報告書

長生橋ライトアップの充実と長生橋フォーラム開催事業

長生橋　2022 年度ライトアップ　　長生橋構造見学会

令和５年２月

長生橋を愛する会

■申請事業名：　長生橋ライトアップの充実と長生橋フォーラムの開催事業

■活動の趣旨・目的

選奨土木遺産である長生橋は長岡の景観を代表する土木構造物である。長生橋ライトアップは長岡地域振興局の協力のもとに「長生橋を愛する会」が主体となって実施し、令和３年度はオリンピックカラーのライトアップで開始し、コロナウイルス感染症の特別警報などの発令により紫・赤色のライトアップを行うとともにオレンジ（認知症）・ブルー（糖尿病）などの啓発カラーで実施した。令和４年度はライトアップをさらに充実・定着させたとともに、長生橋をより深く理解する構造見学会やフォーラム、第２回フォトコンテストを開催し、長生橋と信濃川、長岡の魅力を広く世界に発信した。

■令和４年度実施事業

1．講演会・点灯式

令和４年度は総会に引き続き「長生橋講演会」を実施し、講演会後、長生橋からの中継によるライトアップ点灯式を行った。カラーはウクライナの平和への願いを込めてウクライナの国旗カラーで開始した。

点灯式は長生橋からの中継映像（ＮＣＴに依頼）により19:00 のカウントダウン点灯（点灯は第四電設）とした。

★4 月 22 日（講演会・点灯式）参加者：55 名

会場：アオーレ長岡 市民交流ホールＢ・Ｃ

■長生橋を愛する会総会　17:30～18:00

■講演会（18:00～18:50）

講演：「長岡地域の交通ネットワークと長生橋の役割」

講師：水上　淳氏（長岡地域振興局地域整備部 副部長）

■長生橋ライトアップカウントダウン点灯式（19:00）

長生橋からＮＣＴ121ch で中継、アオーレ長岡ナカドマ大型ビジョンでカウントダウン点灯

講演会・点灯式チラシ

長生橋講演会

2．長生橋ライトアップの充実

令和４年度は、ロシアのウクライナへの軍事侵攻によるウクライナ危機に対し、長岡市民としてささやかながら戦争反対の意思表明、戦争犠牲者の慰霊、ウクライナの平和への願いを込めてウクライナ国旗の色のライトアップで開始した。

その後、６月には環境省の要請を受け、環境の日グリーンライトアップキャンペーンに呼応した「グリーン」。また、再開された長岡花火大会では、ナイアガラ大瀑布・正三尺玉打ち上げ直前に長生橋ライトアップ点灯を長岡花火財団と協議して行うなどライトアップの充実を図った。

点灯式

令和４年度のライトアップの実績は以下のとおりである。

- ４月 22 日～５月 31 日：ウクライナ国旗カラー（戦争反対・犠牲者慰霊・ウクライナの平和）
- ６月１日～６月 30 日：グリーン（環境の日（６月５日）グリーンライトアップキャンペーン）
- ７月１日～８月 31 日：虹色（明日への希望）
  （８月１日は消灯：（長岡空襲の日・慰霊）
  （８月２日・３日は長岡花火大会で点灯：花火大会終了後、深夜 12 時まで点灯）
- ９月１日～９月 30 日：オレンジ（認知症啓発活動・オレンジリング）
- 10 月１日～10 月 31 日：虹色（明日への希望：新潟県建設業協会長岡支部と協働）
- 11 月１日～11 月 30 日：ブルー（糖尿病啓発活動・ブルーサークル）
- 12 月１日～12 月８日：ホワイト（真珠湾攻撃の日（８日）・慰霊と平和）

戦渦のウクライナに届け

平和の架け橋

長岡のシンボル 国旗色で照らす

ウクライナに早く平和が訪れるのを願い、22日夜、信濃川に架かる長岡市のシンボル長生橋のライトアップが始まった。三角形の鉄骨をウクライナ国旗の青と黄色の2色で照らし、ロシアのウクライナ侵攻による犠牲者に祈りをささげた。ライトアップは市民有志でつくる「長生橋を愛する会」が毎年、テーマを決めて実施している。この日は午後7時にライトがともされ、暗闇に青と黄色の光が浮かんだ。同会の渡辺千雅理事長（66）は「空襲などを経験し、戦争の悲惨さを語り継ぐ長岡から戦争反対や平和への祈りを発信したい」と話した。ウクライナカラーの点灯は日没から午後10時半。5月31日まで。

写真＝青と黄色のウクライナカラーで照らされた長生橋＝22日午後7時30分ごろ、長岡市

2022. 4. 24 新潟日報

ウクライナの平和 光で願う

新潟・長岡の長生橋 青と黄の国旗色で

新潟県長岡市の信濃川に架かる長生橋が、ウクライナの国旗色の青と黄色でライトアップされている（写真上、木津幸雄さん撮影）。

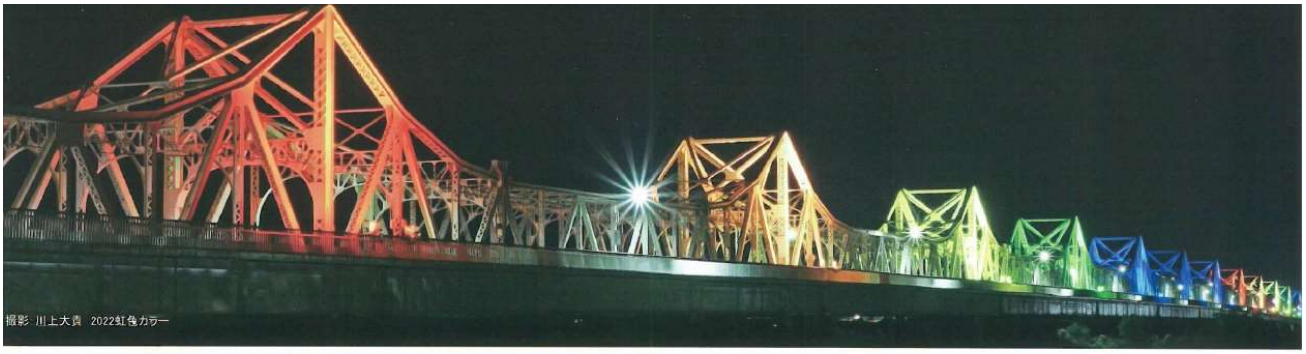
市民でつくる「長生橋を愛する会」（渡辺千雅理事長）の事業。渡辺理事長は「長岡空襲の悲惨さを語り継ぐ市民として、戦争反対の意思と犠牲者への哀悼、平和への願いを込めた」と話している。

5月31日までの日没から午後10時30分。

同橋は橋長約850mの13径間下路式ゲルバー鋼ワーレントラス橋で、1937年（昭和12年）に竣工した。

2022. 5. 15 橋梁通信

3. 長生橋構造見学会



【2022年度長生橋ライトアップ計画案】

- 4/22～5/31：ウクライナカラー　（世界平和）
- 6/1～6/30：グリーン　（環境月間）
- 7/1～8/31：虹色カラー　（平和と希望）
- 9/1～9/30：オレンジ　（認知症啓発）
- 10/1～10/31：虹色カラー　（明日への希望）
- 11/1～11/30：ブルー　（糖尿病啓発）
- 12/1～12/8：ホワイト　（慰霊と平和）

※ライトアップ期間は4月中旬～12月8日夜10時半頃まで

長生橋構造見学会 ～長生橋のヒミツを探る！～

2022（令和4年）
9/25（日）
14:00～16:30
（受付開始13:30～）

■会　場：長生橋東詰上流　信濃川右岸高水敷
（裏面の地図を参照）
■対　象：小学生以上
■定　員：申込み先着順80名（申込み期間：9/15㈭まで）
※定員になり次第、締切ります。
小学校３年生以下は保護者同伴でお願いします。
■参加費：無　料

※お申込み方法は裏面をご覧下さい。

主　催：長生橋を愛する会／新潟県長岡地域振興局地域整備部
（一社）新潟県建設業協会長岡支部
問合せ：「長生橋を愛する会」事務局
村山事務局長【電話：080-6643-4059】

＊この活動は(一財)新潟県建設技術センターの助成を受けて実施するものです。

■日時：令和４年９月25日（日）14:00～16:30
■参加者：44名　　講師・スタッフ：25名
■主催：長生橋を愛する会／新潟県長岡地域振興局／
（一社）新潟県建設業協会長岡支部
■構造見学会内容
- 高所作業車による長生橋見学
- 長生橋の歴史説明
- 長生橋の構造詳細説明
- 信濃川の説明

長生橋 上から構造学ぶ
長岡 親子連れら見学会

長岡市のシンボルとして親しまれる長生橋の構造や歴史を知る見学会が、左近町の信濃川右岸河川敷で開かれた。親子連れら約50人が高所作業車に乗り、12㍍の高さから鉄骨の組み合わせなどを間近に見て理解を深めた。

市民団体「長生橋を愛する会」などが主催し、4回目。3代目となる現在の橋は1937（昭和12）年10月12日に完成し、今年で85年になる。

9月25日の見学会では、長岡高専の井林康教授[51]が、長生橋は鉄骨を三角形に組んで強度を高める「トラス橋造」が採用されていると説明。また橋脚の上でトラスを支える「支承」は、一つにつき橋の重さ約90㌧と通行車の重さを支えていると解説した。

参加者は、高所作業車のリフトに搭乗。橋にかかる力を表すトラス上部の骨が組み合わされ、立派な姿に見えた。腐食部分を補修して今後も橋を残してほしい」と話した。

付属長岡中1年、原直太郎さん[12]は「いろいろな鉄ピン（ちょうつがい）を間近に見たり、写真を撮ったりした。橋上部の腐食部分などに補強板を当てる補修工事の説明も聞いた。父、弟と参加した新潟大

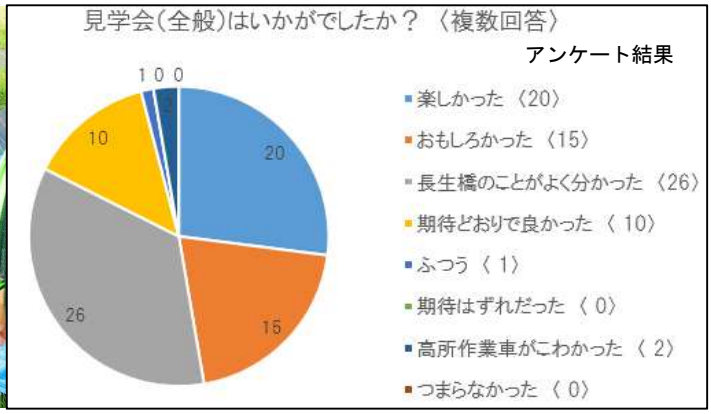
高所作業車に乗り、12㍍の高さから長生橋の構造を学んだ見学会。囲いの中では補修工事が進む＝長岡市左近町

2022.10.8 新潟日報

高所作業車スタッフ

講師陣

安全帯装着



4．長生橋フォーラム 2022「信濃川治水 100 年・歴史と長生橋　補修工事から見える素顔」

■趣旨

今年度の長生橋ライトアップはロシアのウクライナへの軍事侵攻によるウクライナ危機に対し、長岡市民としてささやかながら戦争反対の意思表明、戦争犠牲者の慰霊、ウクライナの平和への願いを込めてウクライナ国旗の色のライトアップで開始した。6 月は環境省の環境の日グリーンライトアップキャンペーンに呼応した取り組みを行い、また長岡花火大会では明日への希望を込めた虹色ライトアップ点灯で多くの花火鑑賞者に感動を与えるなど、着実に長生橋の存在を発信してきているものと考える。

本フォーラムでは大河津分水通水 100 年を迎えた信濃川治水と地域の関りや信濃川の舟運を通じて長生橋の歴史を理解するとともに、昼間交通止めにして本格的に実施されている長生橋補修工事の設計と実際の施工から長生橋の新たな価値を見出そうとするものである。なお、昨年に引き続き実施している長生橋フォトコンテストの表彰式を併せて行った。

長生橋フォーラム 2022

■主催：長生橋を愛する会／
（一社）新潟県建設業協会長岡支部

■後援：新潟県長岡地域振興局、
国土交通省信濃川河川事務所、長岡市

■日時：令和４年 12 月 21 日（金）13:00～16:45

■会場：アオーレ長岡市民交流ホールＡ

■参加者：60 名　■参加費：無料

■プログラム（13:00～16:30）

開会挨拶：長生橋を愛する会理事長 渡辺千雅

来賓挨拶：国土交通省信濃川河川事務所長 今井　誠様

来賓挨拶：長岡市副市長　大滝　靖様

1. 長生橋フォトコンテスト表彰式

- 表彰式（12 作品・12 名）：表彰状授与
- 講評：審査員代表
  長岡造形大学視覚デザイン学科教授 松本明彦氏

2. 長生橋フォーラム 2022

- 講演①「長生橋の歴史と信濃川の舟運」
  講師：長岡戦災資料館アドバイザー 星　貴氏
- 講演②「長生橋の構造と補修設計について」
  講師：㈱構造技研新潟設計部長 板井高志氏
- 講演③「長生橋補修工事の施工について」
  講師：㈱越後交通鉄工所現場代理人 長瀬賢一氏
- 講演④「大河津分水通水 100 年記念事業を通じて、地域と信濃川との関りについて思うこと」
  講師：国土交通省信濃川河川事務所長 今井　誠氏

５．第２回長生橋フォトコンテスト

■趣旨：

３代目長生橋は長岡のシンボルとして 80 年以上愛され続けている。「長生橋を愛する会」では長生橋に新たな魅力を付け加えたいと 2017 年の初ライトアップ以降、市民力で継続点灯するとともに、長生橋に親しんでもらうための活動に取り組んでいる。

「より多くの視点で長生橋の魅力を再発見してもらいたい」との思いから、昨年に引き続き第２回フォトコンテストを実施した。

■主催：長生橋を愛する会

■後援：新潟県長岡地域振興局、信濃川河川事務所、長岡市、ＢＳＮ、ＮＳＴ、TeNY、ＵＸ、ＮＣＴ、ＦＭながおか 80.7、新潟日報社、長岡新聞社

■募集期間 2022 年 12 月 10 日（土）まで

■応募要領

・単写真に限る。
・合成写真や著しく画像処理された写真は不可。
・写真に人物が写っている場合は応募に際して必ず本人の承諾を得ること。
・一人２ 点まで。
・応募作品は返却しない。

■著作権・所有権・使用権等について

・著作権は撮影者に帰属。
・所有権・使用権は長生橋を愛する会に帰属。
・利用期限は無期限、無償で利用できるものとする。

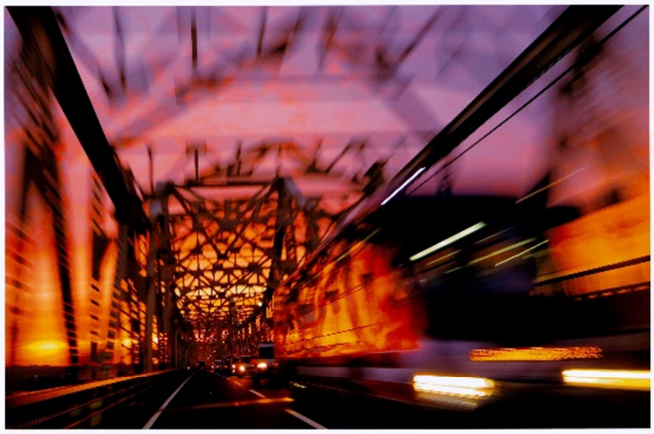
■応募状況と入選作品

長生橋フォトコンテストには長岡市内のアマチュアカメラマン、一般市民、高等学校写真部などの皆様から 51 点の応募があった。12 月 12 日に審査会を開き最優秀賞 1 点、優秀賞３点、入選８点の 12 作品を選考した。

12 月 21 日に開催した「長生橋フォーラム 2022」において表彰を行った。

【選考作品】

最優秀賞



最優秀賞「癒しの真ん中」 吉岡義和

優秀賞（３点）

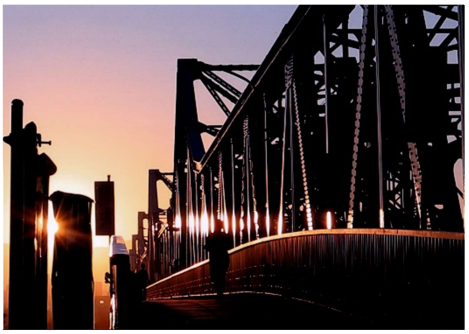
優秀賞「鉄橋の朝広がる」 長谷川繁雄

優秀賞「平和を願う」 池田勝晃

優秀賞「長生橋の背丈まで」 樋口 勲

入選（８点）

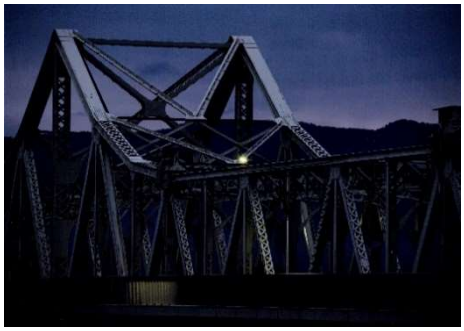
「6 月のファンタジー」　木津幸雄



「おはよう長岡」　川上大貴

「長生橋の見守り鳥」　山本清孝

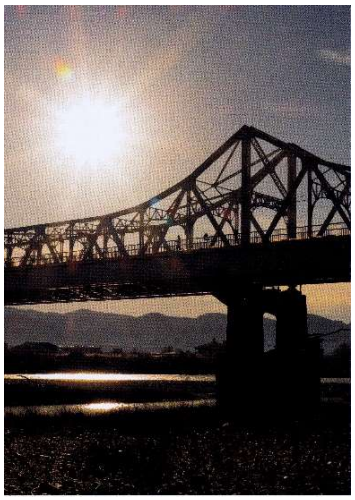
「白菊」　星正太郎



「薄明」　田村彩有美

「Sunset」　大竹楓翔

「キセキ」　森　信輔

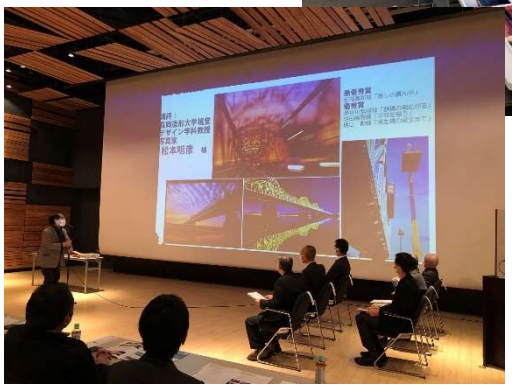


「早朝のファンタジー」　中村博恭

【審査会・表彰式】

フォトコンテスト審査会

フォトコンテスト講評



入賞作品展示
↑会場
←アオーレ

【情報発信】■㈱NCT 特別番組「長生橋ライトアップ 2022」・「ニュース番組ゲッキン」

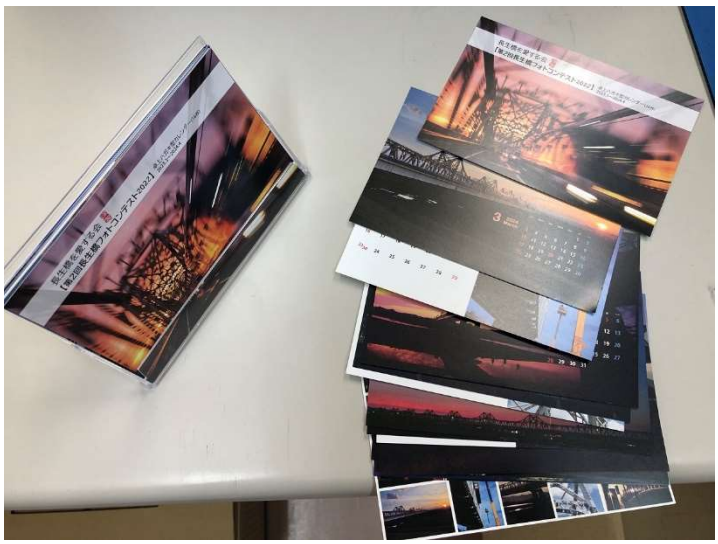
㈱エヌ・シィ・ティ特別番組　「長生橋ライトアップ 2022」

㈱ＮＣＴニュース「ゲッキン」長生橋歩道橋清掃

構造見学会

■長生橋フォトコンテスト・卓上カレンダー

長生橋魅力発信ツール（卓上カレンダー）



■長生橋を愛する会ホームページ

長生橋を愛する会

ライトアップで長岡の未来を照らそう！

銃弾をすべて、ヒマワリと小麦の種に持ち替える日が、一日も早く訪れますように。

新潟日報20220424.pdf (0.6MB)

（画像提供者：木津幸雄氏）

※「長生橋を愛する会」のライトアップは、会員さまの年会費と（一財）新潟県建設技術センターの助成を受けて行っています。

2022 / 09 / 06 08:20

長生橋構造見学会　～長生橋のヒミツを探る！～

2022（令和4年）9月25日（日）

14:00～16:30（受付開始13:30～）

■会　場：長生橋東詰上流　信濃川右岸高水敷（裏面の地図を参照）

■対　象：小学生以上（小学校３年生以下は保護者同伴でお願いします。）

■定　員：申込み先着順80名（申込み期間：9/15㈭まで）

※定員になり次第、締切ります。

■参加費：無　料

※お申込み方法は裏面をご覧下さい。

問合せ：「長生橋を愛する会」事務局

村山事務局長【電話：080-6643-4059】

主　催：長生橋を愛する会／新潟県長岡地域振興局地域整備部／（一社）新潟県建設業協会長岡支部

＊この活動は(一財)新潟県建設技術センターの助成を受けて実施するものです。